

# ★あけぼの★

上越市立直江津南小学校

## 冬の到来 そして2020年子年のしめくくり

校長 平間 えり子

先週 15 日から降り始めた雪。冬将軍の到来によいよ冬本番の時期になりました。寒さが身に沁みる中、児童玄関で子どもたちとあいさつを交わしていると、子どもたちは冷たい風に顔を赤くしながらも、「雪が目に入ったんだよ。」「あられて顔が痛かった。」と登校時の様子を楽しそうに教えてくれる子どもがたくさんいます。玄関先のまだ誰も踏んでいない雪の上を我先にと歩く子、手を大きく空に向かって広げて体中で雪を受け止めようとする子、「うちの人は雪かきが大変だって言ってたけど、私は雪が降って嬉しい。」と話す子などなど、ことわざにあるように、まさに“子どもは風の子”と微笑ましくなります。また、低学年と二人で登校してきた6年生に他のメンバーを尋ねたら、低学年のマスクが風で飛んだので取りに行き二人で歩いてきたとのことでした。冷たい風が吹いていたけれど、気持ちがあけぼのとあたたかくなりました。

歩きにくい雪道、肌を刺すような寒さや強い風雪などの上越の冬ですが、この地ならではの経験を通して、子どもたちは雪国の子として心身ともにこれからも成長していくことと思います。そして、その姿を支えてくださっている保護者、地域の皆様、大変ありがとうございます。バス停で子どもたちを見守り助けてくださっている皆様、交差点で歩道や横断の安全を守ってくださっている皆様、一緒に歩いて安全を見届けてくださっている皆様、たくさんの方々が子どもたちを支え助けてくださっていることに、深く感謝しております。冬は始まったばかりですが、これからも子どもたちを支えていただきますよう、よろしく願いいたします。学校でも、冬ならではの経験を大切にしていきたいと思います。

2020 年は、新型コロナウイルス感染症により、学校生活も大きく変わったところがたくさんありました。その中でも、子どもたちにとって一度しかないこの一年を、「できない」ではなく「どうしたらできるか」工夫することを大切にしてきました。運動部と金管部の課外活動においても各種大会やコンクール等が中止となってしまいましたが、練習の成果を発揮できるように、他の学年もその活躍を見ることができるようにと、運動部は“南小オリンピック”を行い、各種目ごとに記録を競い合いました。金管部は“金管部コンサート”を開き、みんなが知っている曲や新しく挑戦した曲などを披露しました。一人一人の懸命さ、これを最後に課外活動を引退する6年生の雄姿に感動するばかりでした。

未曾有の1年間でしたが、皆様からいつもご理解とご支援をいただきまわり、うれしい限りでした。大変ありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 1年生 生活科「みんな なかよし」

### 「あさがおさんとなかよし」

アサガオの種をまいてから、毎朝、自分のアサガオさんに会いに行きました。「芽がでた!」「つるがのびた!」毎日が発見の連続。大切に育てたアサガオが咲いた時にはとてもうれしそうな子どもたちでした。「一緒にいたい。」という思いから作ったリースからも、子どもたちの「アサガオ大好き」が伝わってきました。



### 「せんせいとなかよし ～なかよしリボンをむすぼう～」

たくさんの職員との関わりを通して、自分から話しかける様子がたくさん見られました。「リボンだけではなくて、気持ちや心もつないだよ。」という気付きからも、関わることの楽しさや嬉しさ、温かさを感じた活動でした。

### 「ひつじさんとなかよし」

9月、入学してきたヒツジに「わたしたち（にじいる学年）と一緒に元気に過ごしてほしい」という願いをこめ、「にじくん」と名付けました。毎日思い思いに関わる中でそれぞれが願いをもち、自分たちでできることを考えました。別れに向けての話合いでは、多くの葛藤がありましたが、「にじくんのために返す」という結論になりました。繰り返し関わり、生まれた「愛情」があるからこそその結論でした。卒業式に向け、今までの活動を振り返りながら、自己の成長に気付くことができるようにしていきます。



## 2年生 生活科「人・自然・みんな大すき2年生」

### 「夏野菜を育てよう」

一人一人が2種類の野菜を選び、苗から育て、収穫しました。水やりや追肥、草取りなどの世話を続けているうちに、苗は自分の身長より大きくなりました。そして、収穫という大きな喜びを味わうことができました。野菜の成長とともに、「自分はがんばった。」という実感をもつことができました。



### 「たんけん・はっけん!直江津だいすき」

地域自慢をもとに、探検計画を立てました。「友達の家はどこかな?」「子どもの家って、楽しいな。」など、知らなかったことの発見を喜び、胸をときめかせました。また、高田図書館、上越科学館などの公共施設を見学することで、「家族でも行ってみたい」「自分で本を借りてみたい」などの声が聞かれました。



### 「遊びランドによろこそ!」

ペットボトルや新聞紙、毛糸や画用紙など、材料を工夫して遊ぶ道具を作り、1年生を招待して遊びを楽しんでもらいました。「1年生が楽しめるようにするには?」と真剣に考え、協力して作り上げました。

## 令和2年度 第2回 直江津南コミュニティ・スクール運営協議会

11月18日(水)に第2回直江津南コミュニティ・スクール運営協議会を行いました。今、学校は地域ぐるみでの学校づくりが求められています。学校には、保護者、地域の方と信頼関係を深め、地域ぐるみでの教育を行うこと、子どもたちに生きる力を育むためにこれまで以上に地域を活かした教育を行うことが必要になってきています。その中核となっているのが、直江津南コミュニティ・スクール運営協議会です。保護者や地域の方などで構成される運営協議会での熟議をもとによりよい学校づくりを進めていきます。

第1回は5月に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面での開催でしたが、学校のランドデザイン、学び・心・体チームの各チームの取組の方針について承認いただきました。第2回の今回は、1学期に行った学校評価アンケートの結果をもとに、各チームの1学期の成果と課題、今後の取組について協議していただきました。委員の方からは熱心にご助言をいただきました。

### 委員の方からいただいたご意見・ご感想を紹介させていただきます。

- 高学年はあいさつがよいので、高学年が全校のあいさつをリードしてほしい。
- 交差点で横断の際に、自動車に乗っている人を待たせていることも考えて横断するよう指導してほしい。
- 児童には学校でたくさん文に触れさせてほしい。音読が苦手な子は文章問題をなかなか解けない。一文字一文字を大切に読むように音読にも取り組んでほしい。
- 子どものアウトメディアへの取組については、保護者の意識を変えることが必要だと思う。土曜日、日曜日は保護者の協力を得て、屋外に子どもを連れ出せると、運動面やアウトメディアへの取組の面でもよいと思う。
- 新型コロナウイルス感染症が来年度収束しているかどうかについてはよく分からないという意識の中で、行事や指導を計画していかないといけないと思う。
- 学習に関して「学年×10分」の目安は分かりやすい。家庭学習のやり方なども、家庭学習強調週間のノート展示や家庭学習の進め方の掲示などを通して今後も紹介していただけるとよい。

たくさんのご助言をいただきました。今後の教育活動の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

## 1月の行事予定

- |                          |                            |
|--------------------------|----------------------------|
| 1日(金) 元日                 | 20日(水) 高学年スキー教室 学校訪問カウンセラー |
| 7日(木) 冬季休業最終日            | 22日(金) わくわくデー              |
| 8日(金) 3学期始業式             | 25日(月) 校内書初め展(～2/5)        |
| 13日(水) わくわくデー 学校訪問カウンセラー | 27日(水) 学校訪問カウンセラー          |
| 18日(月) 委員会活動 知能検査        | 28日(木) 児童朝会                |

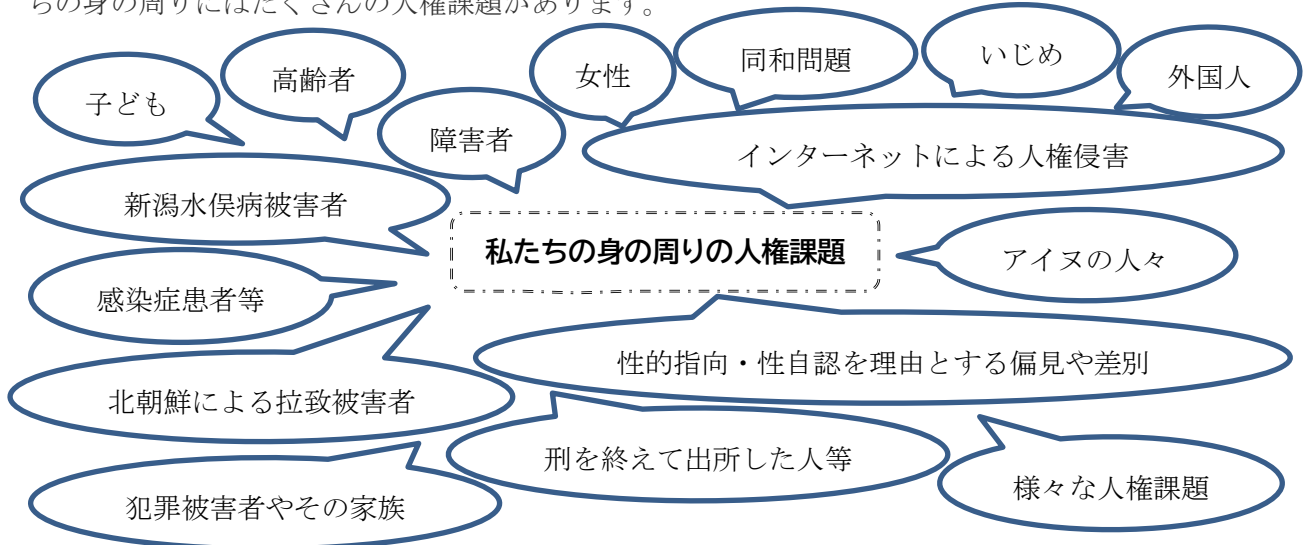


## 人権コーナー

## 「人権」とは？

### ～今一度考えてみませんか～

今年度の人権コーナーでは、これまでに、「新型コロナウイルスによる人権侵害」「ネット上の誹謗中傷 言葉の暴力」「人種差別について考える」「被差別部落のことや同和問題を知っていますか？」「人権教育、同和教育は「ワクチン教育」」「障害者差別解消法について知っていますか？」と題し、現在、子どもたちだけでなく、大人にとっても身近にある人権課題についてお伝えしてきました。しかし、すべてをお伝えできたわけではありません。下記のように、私たちの身の周りにはたくさんの人権課題があります。



新潟県の人権啓発資料「人権って、何だろう？」の冒頭には、「人権」について以下のように示されています。

～（略）～ 「地球上に住むすべての人が人間らしく幸福に生きていくための当然の権利」それが人権です。 ～（略）～ 人権は「誰もが生まれながらにして持っている」そして「法や権力によって奪うことができない権利」です。

「人権」という言葉から、もしかしたら“難しそう”と感じてしまうことがあるかもしれませんが。そんなとき、上越市が目指す「あらゆる差別のない市民の笑顔があふれるまち」にあるとおり、自分も、仲間も、周りの人も、すべての人が「みんなが笑顔になる」と考えてみたらいかがでしょう。お互いの思いやりとやさしさで守ることができる、身近なものなのだ。上記の人権課題と向き合い、差別をなくすべく、様々な取組がされていますが、今なお、解決されていません。近年では、ヘイトスピーチやインターネット上における人権侵害など、今日的な問題がクローズアップされ、人権課題は複雑化・多様化してきている現状があります。

みんなが笑顔になるために、自分も相手も、一人一人がかけがえのない存在であることを胸に刻み、誰もが生まれながらにして持っている「幸せに生きる権利」や「自分らしく生きる権利」を、お互いを大切に思う心で守っていくことが、今の私たち一人一人に求められているのです。

直江津中学校区は、文部科学省委託人権教育研究推進事業の3年次となります。本年度は委託の最終年度となり、これまでの取組の総決算となります。この「人権コーナー」を活用して、本取組を紹介していきたいと思います。